

就職してからずいぶん長い年月が流れました。未来よりも過去を懐かしむ性格なので、近頃は身辺整理をしながら老後の楽しみを考ええています。

学生時代には高嶺の花だった海外旅行。初めての外国は愛知淑徳学園で飛行機をチャーターしての中国でした。確か、卓球部やバレー部、バスケット部の生徒や父母・教職員の訪中団。まだ改革開放が始まった頃の中国で買った人民帽は、教材として活躍中です。その後は、急速な円高と夏休みの恩恵を受けてアジアを回りました。ミンダナオ島のバナナ畑、ダツカの雑踏、カルカッタへの夜行列車とガンジス川の夜明け…。同僚と行ったシルクロードでは地獄を見ました。アフリカにも足をのぼしました。みな大切な思い出です。ボケて忘れるといけないので、写真を整理・デジタル化して冊子にしました。宝物が20冊くらいできました。

1990年代に入つて体力が落ち、給料が上がりつてきたことでリュックを背負ってヨーロッパを歩くようになりました。バックパッカーです。バイブルは『地球の歩き方』。ロンドンもブラハもブダペストもローマも地図を見ながら自分の足で歩き回りました。パリの下町で恐喝に会い、バルセロナで見事に財布をすられ、アテネで

タクシー強盗から脱出したこと…。苦勞して訪れた場所や出会った人々との記憶は鮮明です。ベルリンで買った「ベルリンの壁」のかげらに、タンザニアのマコンデ人形…。お土産も宝物です。あちこちで買った国旗は大小あわせて100枚を超えました。ボクが死んだら棺桶に巻いてください。

宝物は旅の記憶だけではありません。この『愛知淑徳学園』や『淑徳だより』、生徒会の機関誌に担任したクラスの学級通信やイラスト集も老後の大切な宝物です。「あんなことがあった」「こんな生徒もいた」と思い出せます。クラスの写真やビデオに淑徳の記念映画も、死ぬまでに全部観られるか心配です。お世話になりました。ありがとうございます。

